

JHFREPORT



第7回JHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテスト応募作品 撮影：加藤文博

安全に楽しく「自由な飛行」を続けられる2023年に

世界中がコロナ禍という非日常に放り込まれてから4年目。少しずつ新しい「日常」ができてきました。一時は寂しかったフライトエリアに人が戻り、大会も開催されるようになりました。多くのパイロットが集まり、競い合い、切磋琢磨できる環境が、これからも広がっていくことを期待します。

新しい年を迎えても変わらないのは安全なフライトへの願いです。2023年のスタートに、フライヤーひとりひと

りが「無事故」を誓ったことでしょう。事故はほんの少しのほころびからでも起きてしまうことを忘れず、安全に関する情報を収集する、クロスチェックを徹底する、基礎的な技術の見直しを繰り返す、フライト仲間とともにエリアルールを再確認するなど、安全を高めるためにできることを継続してください。

私たちの「自由な飛行」は、社会の理解と協力なしには考えられません。

これまで積み上げてきた信頼関係を崩すことのないよう、今年も安全第一で空を楽しみましょう。

JHF役員の任期は2年間です。現理事・監事が任期満了を迎えるため、今年6月の定時総会で役員の選任を行います。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために何かしたいという方、ぜひ立候補してください（日程等は、P2-3をご覧ください）。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツ&LIFE



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

今年6月に理事・監事を改選、立候補者を募ります。

役員の任期満了に伴う改選

JHF役員選任実行委員会

本年6月13日開催予定のJHF定時総会で、現任役員の任期満了に伴う改選が行われます。

JHFの理事ならびに監事の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められています。

以下、JHF役員の選任について説明します。

1. 立候補資格者

JHF役員選任規約第9条に定められているとおり、立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ所属する都道府県連盟から推薦を受けた方なら、誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

ただし、上位の法律（公益認定法）では、公益法人の事業を行うにあたり、役員・正会員・職員に特別な利益を与えることを禁じる旨が明文化されており、自己に有利な利益誘導があれば罰せられます。

2. 選任方法

選任のための役員立候補者の募集活動や、選任事務は「役員選任実行委員会（以下、選任委員会）」が実行します。

役員の選任は、概ね以下のとおりのスケジュールで行われます。

◇選任公示

役員選任議題のある総会の約10週間前（3月28日を予定）に選任委員会が選任公示を行います。選任に関する資料を正会員に配布し、JHFホームページにも一部掲載します。

◇立候補締切

総会の約6週間前（5月8日を予定）に立候補受付を締め切ります。

◇立候補者公示

総会の約4週間前（5月16日を予定）に立候補者の公示が行われます。

◇投票

総会当日（6月13日を予定）は、役員選任議題の場で、正会員が投票により立候補者それぞれに選任の決議を行います。開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されます。

3. その他

(1) JHF組織

JHFは正会員とフライヤー会員が構成員となり（下図）公益認定時に公益認定等委員会へ届け出た「公益に関わる事業で、かつ不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業」を行います。

JHFの事業や規約等は、法律の範囲で正会員によって構成される「JHF総会」が決定します。総会によって選任されたJHF理事は「理事会」の一員として法と定款および総会決議に基づき、責任を持って業務を執行します。

また、総会で選任されたJHF監事は、法や定款および総会決議に基づいたJHF活動が行われているかを監査します。

(2) 理事の主な役割

- 定時総会・臨時総会の招集を行う。
- 総会議題議案の決定と正会員への通知を行う。
- 理事会への出席（電磁式理事会への出席も含む）。
- JHF事業の業務執行と経営統治権限による職務を忠実に執行する。
- JHFに損害が生じる恐れのある時は正会員に報告する義務がある。
- 代表理事会長の選定、および解職を行う。
- 理事の行為によるJHF損害への賠償責任を負う。
- 委員会の設置および委員の選任権がある。
- 収支予算・事業計画作成権、会長が作成し理事会が承認する。

(3) 監事の主な役割

- 理事の職務が適正に執行されているかの監査を行う権限と、監査報告を作成する義務がある。

- JHF業務や財産の状況を調査する権限を持つ。

- 理事に不正行為の恐れがある時は理事会に報告しなくてはならない。

- 理事会に出席し必要ある時には意見を述べなければならない。

- 理事不正行為にかかわる理事会招集請求権を持つ。

- 総会議題議案や資料を調査しなければならない。

- 理事の行為差止めの権限がある。

(4) 理事会

理事及び監事が招集される理事会が年に6回程度JHF事務局にて開催されます。また、電磁的手段（電子メール等）による文書理事会が月に1回程度開催されます。

(5) 規約の改正

2022年通常総会にて役員選任規約の改正がありました。立候補される方は必ずご確認ください。

(6) 正会員へのお願い

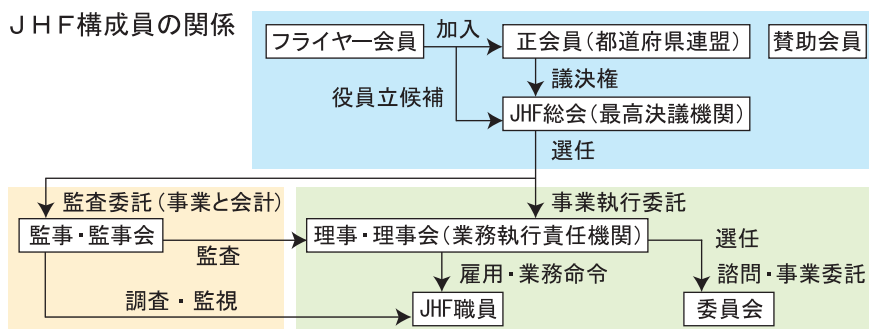
本年の役員選任にあたり選任委員会から正会員へ以下をお願いします。

○役員推薦にあたっては、正会員から推薦理由文を提出していただきます。提出いただく推薦理由文は立候補者本人の立候補意思表明と同様に一般に公開いたします。

○立候補者が貴都道府県連盟に所属している事を確認した上で推薦をお願いします。

○立候補意志表明書（以下、意志表明書）に、立候補者に最低限回答して欲しい質問項目を設けます。立候補者には質問に対する回答を含めて意志表明書を作成していただきます。この質問項目を広く募集します。選任委員会は、正会員からの提案を参考に、意志

JHF構成員の関係



表明書の作成要領を作成します。質問項目の提案を3月3日まで受け付けます。立候補者に回答を求めたい質問項目がある正会員は、下記にメールでご連絡ください。
jhf-rikkouho-q-2023@googlegroups.com

以上をご理解いただいた上で、JHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補してください。

役員選任のスケジュール等は、JHFウェブサイト上でお知らせしていきます。お問い合わせはJHF事務局までお寄せください。

2023年を迎えて



ドローン輸送とスカイスポーツの共存をめざして

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 会長 安田 英二郎



ドローンの飛行形態には、人が目視しながら手動操縦するレベル1、人が目視しながら自動操縦するレベル2、無人地帯での目視外飛行をするレベル3、有人地帯での目視外飛行というレベル4までの4段階があります。レベル4を可能にする改正航空法が令和4年12月5日に施行されたので、現在ではレベル4飛行も法律上は可能となっています。

ただし、実際にレベル4飛行を行うためには、ドローンの機体認証、操縦者の操縦ライセンス、国土交通省の許可・承認という要件を満たす必要があります。現時点ではまだこれらの制度が未整備なので今すぐレベル4の飛行が行われるわけではありません。しかし、これらの制度は急速に整備されつつあり2、3年中にレベル4の初飛行が実現する可能性があります。

ドローンの輸送分野での利用が開始された場合、ハンググライダーやパラグライダーの飛行に対して大きな影響を与える可能性があります。現在はト

ラックが人々の生活に必要な多くの物資を運び輸送の主役となっていますが、トラック輸送にはドライバーの不足や燃料費の高騰など多くの問題があります。ドローンによる輸送は人手不足を解消し人件費や燃料費を抑制し、そのうえ電動ドローンであれば脱炭素化にも役立つと宣伝され利用が促進されていくと思われます。

ドローンによる輸送は離島と山間地から利用が広まるでしょう。そうすると、主に山間地で飛行することが多いハンググライダーやパラグライダーと飛行地域が重なる可能性が高いこととなります。とくに河川は道路と平行していたり集落と接近していることが多く、万一墜落しても人に危害を及ぼす危険性が低いので、大小の河川上空がドローンのための通路として広く利用される可能性があります。

そしてご承知のとおり河川の近くにはハンググライダーやパラグライダーのランディング場が多く存在しています。ドローン輸送が広まった場合、空中接触の危険があるだけでなく将来的にはハンググライダーやパラグライ

ダーの飛行に対する新たな制約につながっていく危険性もあります。

ドローン輸送は過疎地や交通不便な場所への低コスト輸送を可能にする新しい輸送手段であり、今後、加速的に実現・普及が進んでいくことは間違いありません。その中でわれわれのスカイスポーツを維持していくためには、われわれの飛行地域でのドローン輸送が実際に始まる前に、双方で調整する道を探り共存を図っていくことが必要です。

そこで、JHFではまずハンググライダーやパラグライダーエリアのマップ、つまり練習場、テイクオフ場、ランディング場、通常飛行する範囲、競技において飛行する範囲等を示した地図を作成し、JAA、国土交通省やドローン輸送を行おうとしている輸送業者などに情報提供することを考えています。そのマップによってわれわれのスカイスポーツを理解していただくことが、すぐに始まるドローン輸送との調整に役立つからです。

皆様のご協力をお願いします。

JHF創設40周年記念イベント第一弾 「フライ-イン紀の川」 報告

公益社団法人日本ハング・パラグライダーディング連盟（JHF：当初は日本ハンググライダーディング連盟）は、創設40年を迎えました。これを記念して、イベント第一弾「フライ-イン紀の川」を12月10日（土）、11日（日）に和歌山県紀の川フライトパークにて開催しました。フライヤー会員が集合して自由にフライトしJHF40周年を祝おうという



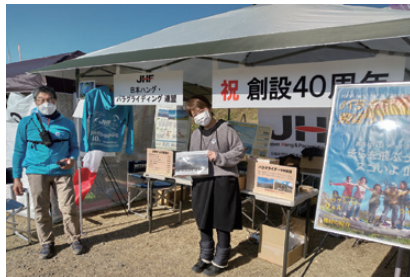
安田会長（茶色コート）はじめ理事も集合、盛り上げた。



多くのフライヤーが自由なフライトで40周年を祝った。

もので、多くの参加をいただきました。

毎年多くのフライヤーが集まる「バリバリ大試乗会」（今回は第25回）の会場にブースを設置し、パラグライダーVR体験、パネル展示を行ったほか、記念グッズの販売やフライ-インでフライトされた方へ、協賛各社より提供いただいた品物の抽選会を行いました。



JHFブースでは桜井事務局長が空撮セミナーのご案内。



山本直洋氏による空撮テクニックのセミナーも実施。



40周年記念のパーカー。千鳥とともにHG&PGが飛ぶ。

安田英二郎会長をはじめJHF理事たちも集合し、フライヤー会員や業者の皆さまと情報交換を行い、各担当事業に関する質問に答えました。

また市内の特設会場では、JHFフォトコンテストの審査員としておなじみの写真家、山本直洋氏による空撮テクニック（一眼レフカメラによる写真撮影やGoPro等による動画撮影技術、画像処理など）のセミナーを開催。空撮に使われる機材や、世界七大陸最高峰撮影プロジェクトについて、キリマンジェロでの体験など、素晴らしい空撮写真や映像を披露しつつの貴重なお話をいただきました。

なお、このセミナーはYou Tubeによるライブ配信も行い、チャットによる質問も受け付けました。録画はYou TubeのJHF Official Channelでご覧いただけます。

JHFの動き-1

2023年競技シーズン

三つの日本選手権を3月に

1月1日から2023年JHF競技シーズンがスタートしました。

3月には下記之三つの日本選手権を開催する予定です（パラグライダーグアキュラシー日本選手権の開催日は未定です）。

日本選手権はいずれも国際航空連盟（FAI）のカテゴリー2大会としての開催です。参加される方はFAIスポーティングライセンスが必要です。ご注意ください。それぞれの開催要項は、JHFウェブサイトの各競技委員会ページに掲載しています。

●パラグライダーディング日本選手権2023 in 紀の川

3月17日（金）～21日（火／祝）
和歌山県紀の川市 紀の川フライトパーク

●2023ハンググライダーディング日本選手権 in 板敷

3月17日（金）～21日（火／祝）
茨城県石岡市 板敷山フライトエリア

●2023 Hang Gliding Class V Japan Championship IN ASHIO（ハンググライダーディングクラスV日本選手権）

3月30日（木）～4月2日（日）
茨城県石岡市 足尾山ハンググライダーエリア

JHFフォトコンテスト開催

お気軽にご応募ください

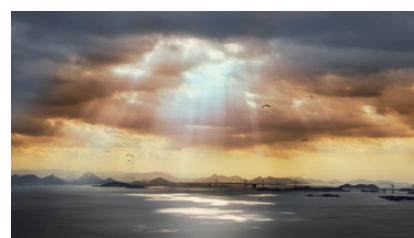
今年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。ハンググライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、2010年から

フォトコンを開催し、今回で10回目を数えます。

今回もハンググライダー・パラグライダーの醍醐味や楽しさを伝えられる作品を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可能です。

担当者一同、楽しみにお待ちしております。

募集要項等はJHFウェブサイトのトピックスで後日お知らせします。応募締切日は2023年9月5日（火）です。



第9回最優秀賞「光の射す方へ」深野達也さん作品

県連だより

■航空スポーツ教室ふわり体験開催 長野県ハング・パラグライディング連盟

令和4年11月23日長野県山形村において日本航空協会主催の航空スポーツ教室が開催されました。私たち長野県ハング・パラグライディング連盟は20名ほどの小学生を対象に「パラグライダーふわり体験」と称し、体育館内で1名3回ほど体験教室を行わせていただきました。

当日は、熱気球、パラグライダーと模型飛行機制作など盛り沢山の教室があり、どれも子供たちにとって新鮮な体験だったかと思っています。

最初は緊張していた子供たちも時間がたつにつれ打ち解け、笑顔と笑い声に満ちた教室となり、子供たちのみな

らず山形村の方々も大変喜んでおられたように思います。

日本航空協会としては3年越しの開催、天候は今一つでしたが現場は晴れ晴れとした雰囲気で大成功です。

子供たちが参加を決め、想像し、わくわくし、近づくにつれドキドキし、それが具現化されることにより憧れを抱き、そして夢を持ち、目標とする、そのすべては、わくわくする心の衝動から始まると実感しました。

幼少期におけるこのようなわくわく体験を企画実行することこそが航空界に進んだ大人たちの責務であり義務かとあらためて強く思います。今回私たちがこのような機会を提供させていただいたことを感謝しています。



子供たちの笑い声に満ちたふわり体験教室に。

将来この子供たちの中から空の世界に足を踏み入れる子供が一人でもいれば幸いです。

空を見上げている子供を見かけたらあなたも空を見上げ思い出してください、わくわくする心を。

長野県連 水谷雅三

学連ニュース

学生大会報告

今回は学生大会の報告をさせていただきます。

まず8月に開催、ハンググライダー学生選手権についてです。無事に全クラス成立し、事故もなく非常に充実した大会になりました。4年ぶりの学生大会ということで運営が滞る点もありましたが、インストラクターをはじめ選手の皆さんの協力のおかげで大方スムーズに進行することができ、楽しい4日間となりました。本当にありがとうございました。

各地から30人弱の学生が集まり共に競い合うという経験は大きな刺激となりました。同年代の学生フライヤーとの交流で、技術向上とともに、モチベーション向上にも繋がりました。

1stクラス/2ndクラスは初日と3日目に成立し、いかに長く空を飛べたか

で勝敗が決しました。Expertクラスは2日目に成立し、サーマルトップが低い中で熱い戦いを見せてくれました。今回は社会人大会同様にライブトラッカーを使用していたため、全員がフライトを見届けることができました。入賞者の方々おめでとうございます。

Expert class

- 1位 児玉智雅（東京大学） 747点
- 2位 氏家魁斗（神戸大学） 520点
- 3位 松永大輝（大阪大学） 518点

1st class

- 1位 菊池正真（九州大学） 437点
- 2位 櫻井悠馬（埼玉大学） 336点
- 3位 小田 怜（大阪大学） 307点

2nd class

- 1位 前田 望（金沢大学） 936点
- 2位 小川晃輔（大阪大学） 451点
- 3位 氏家昇大（鳥取大学） 380点

続いて11月に行われたパラグライダー新人戦についてです。バラ新人戦はターゲットを目指した上で、テイクオフから安全にランディングするまでの精度を総合的に評価します。ハング学戦と同じく全国各地から山形の十分一エリアに学生フライヤーが集まりました。

今回が初のお他エリアで緊張している学生も多く見られるなか、1日目は無

事競技を行うことができました。2日目は風に恵まれず山からは飛べなかったものの、1日目の得点が同率の人が多数見られたため、グラウンドハンドリングのタイムで競うものになりました。臨機応変に対応してくださった運営陣の方々ありがとうございました。入賞者の方々おめでとうございます。

まだまだコロナ等に油断はできませんが、体温チェックシートなどを用いて対策を行いながら大会を開催することができました。9月の砂丘合宿は開催が見送りとなったものの、今後大会やツアーを復活させていく良い足掛かりになったのではないかと思います。

3月には龍門学生大会があります。これから日本学連としてはたくさんの大会を開催していくつもりです。多くのご参加をお待ちしております。



ハンググライダー学生選手権の参加者たち。



足尾エリアでのパラグライダー新人戦参加者たち。

上級タンデム技能証検定

JHF教員・スクール事業委員会

上級タンデム技能証制度を開始して3年が経過しました。この技能証は、タンデム飛行の安全性と確実性を向上させることを目的として2019年に新設しました。

初回合格の皆さんが3年の有効期限を迎えるため、今年度は継続検定も行っています。

今年度の上級タンデム検定は7箇所で開催（2022年12月末時点）、新規検定を含め102名が受検しました。上級タンデム技能証所持者166名の内、62名の方が継続検定を合格しました。

検定会開催予定はJHFウェブサイトに掲載しています。

社会に認められるタンデム飛行を

上級タンデム技能証は、誤解を恐れずにいえば、タンデムパイロットの既得権を守るためではなく、パッセンジャーとして同乗する方々を守るためのものです。安全性と確実性を守る制

度を維持することで、タンデム飛行が社会に認められ、今後も続けていけることを目指しています。すでに一部の体験予約サイトでは、タンデム飛行を実施するスクールに対して、保有資格の詳細や、客観的な運行基準の提出を求め始めています。

もしも、上級タンデム証を取得せずに未経験者とタンデム飛行をしている方がいるとしたら、それは自由に飛べる環境を自ら壊していると言わざるを得ません。

上級タンデムの実技検定は一発勝負の難しさはありますが、検定項目は特殊な技術を要するものではなく、パイロット証の技量があれば合格できます。

皆さんの大切なお家族やご友人がタンデム飛行を希望されたときに、パイロット証レベルの検定項目を合格できないタンデムパイロットに、安心して

任せることができるでしょうか？

空を飛ぶ楽しさを未経験者にも伝えることのできるタンデム飛行を今後も続けていけるよう、上級タンデム技能証制度を皆で守っていきましょう。

検定について

上級タンデム検定会は2日間の日程で、学科講習と学科試験、実技検定をおこないます。実技検定は、ソロフライト検定で合格した者のみがタンデムフライト検定に進みます。検定員は3名以上を配置することで合格基準を一定に保っています。また、検定員のうち少なくとも1名は同一の企業グループやスクールに属さない者とする事で、公平性を担保しています。受検者は事前に健康診断書と使用機材一覧を提出し、基準を満たさない場合は受検できません。

今後の検定会予定などは、JHFウェブサイトですぐお知らせします。

JHFの動き-2

教員技能証をめざす方のための 集合学科検定を実施

ハンググライディング／パラグライディングの教員をめざす方のための教員学科検定は、重要事項の講義と学科試験、教習実技試験を実施するため、これまで2日間で行ってきました。

今回は事前にオンライン（ZOOM）講義を済ませ、会場に集合しての検定は1日で、学科試験と教習実技試験を実施します。

日程：2023年2月19日（日）・20日（月）
どちらかの日に受検

会場：西日本：紀の川エリア周辺

東日本：JHF事務局もしくは
都内会議室

なお、ZOOMによるオンライン講義は事前の平日2日間の夜間、各2時間を予定しています。

教員・助教員技能証申請料改正 2023年4月1日より5,000円に

前号に掲載した申請料改正について再度お知らせします。

教員・助教員技能証申請料（新規または更新）は、2012年7月理事会において、教員・助教員を増やすために1,000円に改定しました。しかし意図したほどの効果がなかったことと、他の更新、継続がある技能証・認定証申請料との整合性を取るために、2023年4月1日より5,000円に戻すことが決まりました。

対象となるのは、2023年4月1日以降の新規・更新の申請（更新の場合は、お持ちの教員・助教員技能証の有効期限が2023年12月31日までの方）です。改正前に早目に申請をされても5,000円になりますので、技能証の有効期限をご確認ください。

2022年12月31日に有効期限が切れた方は、有効期限の改正により2023年3月31日までは有効となります。有効期限が切れる3月末までに更新のお手続きをお願いします。有効期限が切れて、4月以降に更新の申請をされる場合、申請料は5,000円になります。

ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。

「新しいことを始めたかった」40% JHF練習生アンケートを実施

新しいフライヤーを増やすためにはスカイスポーツに興味を持つ潜在的フライヤーの声を聞きたいところです。しかし、そんな人を選び出すことは不可能なので、これからスカイスポーツを始める人に最も近い人として、ハンググライダー（HG）やパラグライダー（PG）の練習生技能証を取得された方々のうちメール連絡が取れる638名の方を対象としてアンケートを実施し、227名の方にご回答をいただくことができました。

貴重なご意見をくださった皆さま、ご協力ありがとうございました。皆さまのご意見は今後のJHFの活動にも反映していきたいと思っています。

集計結果の概要を次ページに掲載します。

なお、回答者はPGが176名、HGが51名で、年代は10代4%、20代29%、30代11%、40代17%、50代20%、そして60代が19%でした。

補助動力パラグライダー全国フライ in 塩屋海岸

JHF補助動力委員会 委員長 賀家 慎司

2022年10月15日（土）・16（日）、石川県の塩屋海岸で「補助動力パラグライダー全国フライ in 塩屋海岸」を開催、併せて安全セミナーを実施しました。

<https://sites.google.com/view/2022insioyahozyodouryoku/>

このイベントの目的は、補助動力パラグライダー愛好者の融和親睦、またフライト技術やモラルの向上を図り、事故防止に寄与すること。

JHF補助動力委員会が中心となって実行委員会を立ち上げ、塩屋海岸駐車場から片野海水浴場までの直線4kmを飛行エリアとするフライインの計画を推進。地元土木事務所の一時使用許可ほか、緊急時に備えた加賀警察署、加賀消防大聖寺分署、塩屋町との連携により実現しました。

両日とも好天に恵まれて、21名が参加しました。

東海、北陸、関西からの参加者を中心として、最北は山形、最西は鳥取からの参加で賑わいました。国内在住ブラジル国籍のフライヤーグループの参加者も6名おり、国際色も添えられたイベントとなりました。

後援していただいた北國新聞社からの取材もあり、新聞報道のおかげでフライヤーとその関係者だけでなく、カメラを持参しての地元からの一般見学者も複数訪れて、参加フライヤーのテイクオフ・ランディングを撮影していました。

また、地元行政の加賀市役所からも視察に来ていただき、加賀市の新しい観光資源として知ってもらい今後も情報交換により塩屋海岸での補助動力飛行の活性化を提案していける良好な関係性を生み出しました。

安全セミナーは、15日にフライトの動画を撮影し、夕方からそれをホテルの会議室で上映しながら各自が評する形で行いました。

以下は安全セミナーにおいて気になった点です。

適性な装備機材の認識に意識のズレを感じる場面がありました。一例としては、ラグビーなどで使用するヘッドギアをフライト用のヘルメットとして使用するフライヤーを見かけ、安全性を担保できるか否かについて未知なものであったことです。

今回の安全セミナーに限らず、安全性に疑問のある装備品でフライトしている動画のYou Tube公開について、一般から情報が寄せられたりしたことにより、あらためて補助動力委員会において推奨する装備品の基準を打ち出して、JHFから指標となる情報発信をするべきと考えさせられる場面でした。



愛好者の交流とともに安全に対する意識向上も。



2日間とも好天、フライトを楽しむことができた。



国内在住ブラジル国籍のフライヤーも参加してくれた。

あなたはなぜ飛び始めた？ ————— JHF練習生アンケート 集計結果概要

普及活動に活かそうと、これからハンググライディング・パラグライディングを始めようとする人たちに一番近い感覚をお持ちだと思われる練習生の方々を対象にアンケートを行いました。以下は結果の概要です。

【始めたきっかけや動機】

空を自分で飛んでみたかった88%、新しいことを始めたかった40%、その他の動機では、タンデムで家族と飛びたい、テレビで「Xアルプス」を見た、など。友人に誘われた、楽しそうだったから、という

回答も。

【入校を決める前にHGやPGが飛んでいるのを見たことがある？】

実際に見た57%、テレビで見たことがある25%、など。

【スクールを選ぶ時に重視したこと】

スクールやサークルの雰囲気よかった、スクール設備がよかった、インストラクターがよさそう、など。

【スクールに改善して欲しい点】

特にない66%、水洗トイレや更衣室の充実、など。細かい技術指導の時間が定期的ほしいという声も。

【スクールのよい点】

スタッフや教員やスクール仲間が

よい、指導やアドバイスが分かりやすい、皆さん優しい、熱意がある、など。多くの人が「アットホーム」という言葉で評価。

【スクールの総合的評価（5点満点で5点がとても良い）】

1点：2名 2点：6名
3点：27名 4点：73名
5点：118名

【他に経験したことのあるスポーツ】

トレッキング・山登りが最も多く52%。他はランニング・ジョギング、自転車、スキューバダイビング、野球、サッカー、サーフィンなど。

自分を過信しない／仲間と協力して安全飛行を守る

JHF安全性委員会

2022年は死亡事故が7件も報告されました。レッグベルト付け忘れ事故は、この中で3件と多く、絶対に防げるはずの事故が新たに発生し、たいへん残念な年でした。他では、ラインが絡んだままでフライトし適切な対応ができ

ず墜落、翼の潰れに対処できず墜落、といった事故が起きてしまいました。

パイロット自身が『私は大丈夫』と思わず、他の仲間と協力しクロスチェック（相互の安全確認）を絶対に行う習慣を作りましょう。

そして、技術不足。安全にフライトする方法に不安を抱えている方は、信頼できる指導者へ相談することも大切です。

ライズアップして体が地面を離れて浮き上がれば、時間を巻き戻すことは

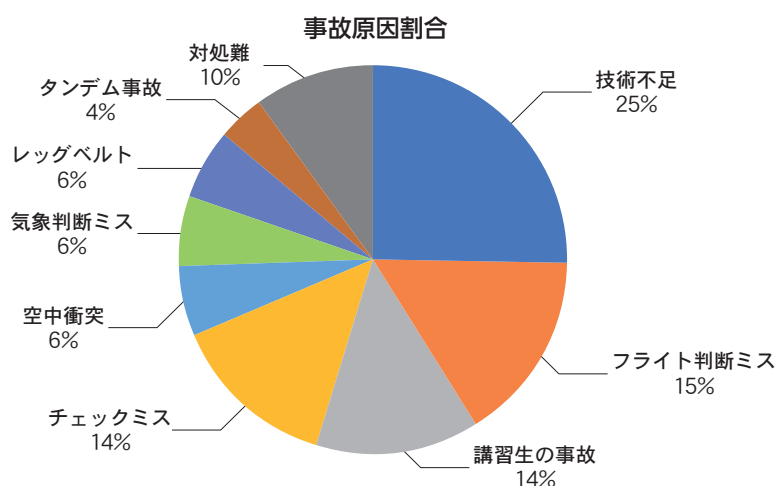
2022年の事故報告 ＊青色は接触事故、オレンジ色はスクール生の事故

	日付	機材	内容	EN	年齢	経験	怪我状況
1	1月8日	HG	講習斜面で練習中に着陸失敗		19	0	重傷
2	1月9日	HG	LD場に戻れずツリーラン		23	4	無傷
3	2月10日	MPG	強風時に離陸し風に煽られ木に接触、舗装路に落下	B	74	15	両足首骨折
4	2月15日	PG	強風時に飛行し流されフェンスに引っ掛かり落下	B	74	20	胸部骨折死亡
5	2月19日	PG	アキュラシー競技中、アプローチで失速	A	60	29	肋骨、頸椎骨折
6	2月28日	PG	レッグベルト付け忘れで落下	B	72	8	全身骨折死亡
7	3月8日	PG	風強めLD時に3-5mで右翼が潰れて右回転270度で真下へ落下	C	57	6	下腿部骨折
8	3月23日	PG	片翼潰れによりスパイラルダイブで落下	B	70	5	死亡
9	4月24日	PG	ラインが絡んでTOしツリーランをしようと失速、木から落下	C	41	15	腰椎圧迫骨折
10	5月9日	MPGTM	タンデム飛行でライン絡んで離陸、失速落下 パッセンジャー		65	6	膝・腰打撲 腰椎圧迫骨折
11	5月22日	PG	着陸前に突風が吹き操作を誤り失速	B	65	1	腰椎圧迫骨折
12	6月19日	PG	低高度2本目、右を引きすぎて急旋回失速し背中から落下	A	58	1	胸部骨折
13	7月2日	PG	レッグベルト付け忘れで落下		75	23	死亡
14	7月10日	PG	テイクオフして斜面に沿うような飛行して斜面と激突	B	72	4	左太腿筋肉膜断裂
15	7月17日	PG	LDアプローチ中、フォローの風を受けて失速	B	58	3	腰椎圧迫骨折
16	7月17日	PG	体験フライトでお尻からハードラン				腰椎圧迫骨折
17	7月17日	PG	スキー場内のアプローチで電線に接触	B	39	8	肩から手裂傷
18	7月24日	PG & PG	空中衝突し落下 空中衝突し落下		58 60代		下腿部骨折 無傷
19	7月24日	MPG	強風でバランス崩し3mから落下、排気管とタンク火災				重傷
20	8月11日	PG	経験10本目。この日1本目の着陸時に右足首骨折	A	66	0	右足首骨折
21	8月27日	PGTM	タンデム飛行で自撮り棒がラインに絡みLD付近で失速墜落 パッセンジャー		58	40	腰椎圧迫骨折 打撲
22	8月28日	PG	ライズアップ加速中に左翼が潰れて転倒し大けが	C	50	13	下腿部骨折
23	8月31日	PG	XC時の着陸で失速、背部から着地	B	57	28	胸部骨折
24	9月1日	MPG	原因不明で川に墜落 救助に向かった指導者		59	27	重症 死亡
25	9月3日	PG	LDアプローチ中、10m失速	B	75	24	腰椎圧迫骨折
26	9月4日	PG	クラバット。LD場へ向い高度足らず陸地に尻着し圧迫	B	23	2	腰椎骨折
27	9月15日	PG & PG	空中接触事故。B級生 空中接触事故	A	25 65	2 19	無傷 無傷
28	9月15日	PG	ライズアップし助走し始めて前のめりで転倒	B	67	30	頸椎打撲
29	9月17日	PG	TO後、ローター域で潰されSAT状態で2回転して木に落下	B	71	14	肋骨4本骨折
30	9月24日	PG	砂浜上空30m程度ローリング、片翼潰れて落下	C	76	24	頭部内出血
31	9月25日	PG	ソーラーパネルの上に墜落。引きすぎでスピン落下	D	70	35	無傷
32	10月1日	MPG	ラインが絡んだまま離陸して、操作ミスでスピン失速落下		74	14	死亡
33	10月1日	PG	サーマル狙いでLD場に戻れず不時着。翌日発見	C	73	45	無傷
34	10月1日	PG	TO後左に取られて、TOスペースに激突、修正せず	B	80	3	頸椎骨折
35	10月16日	PG	TO後、左翼潰れてツリーラン	B	48	5	下腿部骨折
36	10月19日	PG	レッグベルト付け忘れでTO、捜索4日目に発見	C	69	10	内臓破裂死亡
37	10月21日	PG & PG	空中接触しスパイラル状態で墜落 空中接触事故後、ランディング	C	63	30	腰椎骨折 無傷
38	12月11日	PG	風強めでLD高度10mでビッグイヤーを行うと同時に失速	C	63	24	腰椎骨折

できません。重大なミスをした時のことをイメージし、現実では自身を守るための正しい判断を機材準備から行い、自分の技術レベルに合ったフライトプランを作り、また気象条件が想定より悪い場合には、無理して飛ばない判断をしましょう。『また次の機会に安全に楽しく飛ばう！』という考え方が重要です。

今年の飛び方をあらためて考え直し、事故のないスカイスポーツを目標にしていきたいと思います。

安全性委員会 委員長 伊尾木浩二



ライザー、ハーネスの『ながら装着』はNG!

最近よく耳にするハーネスのレッグベルト結束ミスによる事故についての情報や解決策について、静岡県フライヤー連盟の定例理事会にて、意見交換を行いました。その中で、南裏健康さんの意見にとっても興味深いものがありました。

南裏さんは、プロクライマーであり、山岳ガイドそしてクライミングインストラクターで、パラグライダーのフライヤーでもあります。ここ十数年は、伊豆、朝霧、七曲り等でよく飛んでいるということです。パラグライダーとは違う世界でも、似たような事故が起こっています。その対策はととても参考になると考えて、南裏さんへアドバイスをお願いしてみました。

安全性委員会 委員 目黒 敏

【南裏さんからアドバイス】 ハーネス等の装着は黙って行う

以前はクライミングにおいてもハーネスやロープの結束ミスによる事故が見受けられました。

岩場でクライミング中の事故もパラグライダー同様、本人だけの問題では済まず、そのエリアの閉鎖や活動自粛等の流れが懸念されています。正當果敢に挑戦して結果としての事故ならまだしも、ケアレスミスで閉鎖の憂き目にあっては残された者は残念でなりません。

クライミングでは、ハーネスやロー

プの結束時は『黙って行う・話さない・話しかけない』。登り始めには、クライマーとビレイヤー互いにクロスチェックを行い「ではお願いします。」今ではこの手順が、スタンダードとして定着しています。

クライミング人口の急激な増加を考えても、事故はかなり減少しました。室内壁の普及によってプロのインストラクターに学ぶようになったこと、指導方法が精査されたこと、結果として個々人の安全性の意識が向上したことが事故減少の理由として挙げられます。

ということで、結束箇所が多く複雑なパラグライダーにおいてはなおさらです。ライザー、ハーネス装着時はそのことに専念する。喋りながら、何々しながらの『ながら装着』はNG。装着中の者に語りかけない。また周りの人から話し掛けられても受け答えしないでニコッと笑って「装着中！」と抗議できる。そんな空気を作った上でのクロスチェックであり安全フライトが実現できるのではないのでしょうか。

またリベット実験という人間と自由意志に関する興味深い研究があります。詳細は省きますが、パラグライダーの技術習得や指導に役立つことでしょう。

理屈で理解し安心してはダメ、脳にインプットするためには、如何に日々のトレーニングが重要か、改めて

反復練習の重要性に気付かされます。

三つ子の魂百までと言います。最初の指導は重要です。インストラクターには、繰り返しの指導をお願いしたい。

とはいえ三つ子より嫉の悪い百歳児が大半というのが現状のパラグライダー界です。インストラクターだけには任せておけません。フライヤー個々が各エリアでの左記マナーの啓蒙、クロスチェックも形骸化させないための方策を繰り返し考え、永遠の努力をする覚悟が重要です。

南裏 健康

ミナミウラタケヤス



静岡県で南浦クライミングスクールを経営。13歳頃から大人に混じって登山を始める。18歳からは本格的にクライミングの世界に。フリークライミング、ヒマラヤ高所ビッグウォール、アイスクライミング、世界中フィールドを巡る。なんでもこなすオールラウンドクライマー。2003年国体ではクライミング競技のコーチとして、静岡チームを優勝に導いた。

【登頂記録】パキスタン、マッシャーブルム7500mアルパインスタイルで登頂/パキスタン、トランゴタワ単独新ルート登攀/カナダ、ロータスフラワータワーフリークライム/アメリカ、エルキャピタンメスカリートA4登攀・同エルキャピタンノーズ登攀/カナダ、コロンビアアイスフィールド、アイスクライミング登攀/アラスカ、マッキンレー6200m登頂



平野竜二、初優勝で日本選手権者に。

2022年12月3日-4日 静岡県富士宮市朝霧高原 報告：ジャッジ/PG競技委員 鈴木 洋史

「2022パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」が12月3日、4日の2日間で行われた。参加選手は国内選手33名に東欧コソボからの参加選手4名を加えた37名。

Day 1

天気、風ともに良好の予報ではあるが、寒気が入り込み朝はかなり冷え込んだため、日中はサーマルの発生する難しいコンディションが予想されるなか、競技を開始。

競技は順調に進行するが、予想通りサーマル発生によって常に変化するランディングの風に選手たちは翻弄され、リーグ戦で上位に食い込むような

ベテラン勢も苦戦。序盤から3桁スコアを背負う厳しい状況の選手が続出、今シーズン3勝を挙げている昨年のチャンピオン和田選手もR2（R＝ラウンド）で痛恨の402を出し、早くもプレッシャーがかかる展開。R3終了時点で100以下のスコアが浅田、平野、花田の3選手のみとなる。

R4に入り前述3選手も3桁スコアを記録し、すべての選手がR5を待たずに大きなスコアを抱えた。そして迎えたR5。ラウンド開始から予報通り時折フォローが入り始め進行が遅れる。安定しなかった翌日の天気予報が好転しているため、初日はクローズとなった。



コソボから来てくれた友人たちと。



テイクオフ場でのパイロットブリーフィング。



2日間で9ラウンド成立。サーマル発生で上位者にもミス続出、タフな展開が続いた。

Day 2

前日同様の天気。昨日の吹き降ろしが吹き始めた時間を加味して、13時の時点で競技中のラウンドの次のラウンドを最終とすることをブリーフィングで選手に伝え、2日目の競技を開始。順調にラウンドが進行するが、この日も調子の上がってこない選手が続出。殆どの選手が大きいスコアを抱えているため2回目の失敗が致命傷になるプレッシャーもあり、タフな展開が続く。

R8で13時を迎え2022年の日本選手権はR9で決着をつけることになった。

この日も好調なランディングを見せたのは平野選手、昨日の0スコアを含めて8本中5本を一桁スコアでまとめ暫定首位、それを浅田、和田が追う展開に。まずは和田選手が「36」で上位2選手にきっちりプレッシャーをかけるが、続く浅田選手は「3」を出し2位以上を確保。皆が見守るなか初優勝のプレッシャーのかかる最後の平野選手は、見事「3」のスコアで大会を締め、歓喜の声が上がった。

事故も無く2022年のアキュラシー日本選手権は無事終了。平野竜二選手はリーグ戦を含めての初優勝が日本選手権となった。

女子は山口香代選手が2022年第1戦に続き得意の朝霧で優勝、選手権者となった。

筆者も、初の外国選手も含めた国際



眼下のターゲット中央、パッドをめざしてテイクオフ。

大会でのジャッジでとても良い経験になった。

[スクラッチクラス総合]

1位	平野 竜二	兵庫	184
2位	浅田 寛之	兵庫	218
3位	和田 浩二	静岡	384
4位	薮 哲行	兵庫	417
5位	古田 岳史	埼玉	461
6位	花田 瞬	福岡	544

[スクラッチクラス女子]

1位	山口 香代	東京	1066
2位	橋本みさ紀	大阪	1376
3位	高橋 美佳	埼玉	1430

[ハンディキャップクラス]

1位	浅田 寛之	兵庫	4
2位	平野 竜二	兵庫	5
3位	花田 瞬	福岡	6

[チーム]

1位	ぴよぴよ	10
2位	スカイ朝霧	7
3位	丹パラA	5
3位	DAVINCI/airkassy	5

日本選手権から

平野 竜二

初日、フライト順決めのくじ引きで30番。待つのが嫌いなので「いまいちだな」と思いながらのスタート。1本目2本目とパッドラン。そのあと3本目4本目とパッドを外すも2位。表彰台に乗れるかもという思いがよぎる。

2日目5～7本目パッドラン。優勝を意識し始め、このままフォローになって終了せんかな～などと考えてい

たら大きく外してしまった。それでもまだトップで2位と約30センチ差。

最終ラウンドは、みんなを送り出し最後の1人。弱い風のなか緊張のテイクオフ。高度処理中に2位の浅田さんがパッドを踏むのが見えた。俺も踏むと自分に言い聞かせ「風向き変わるなよ。サーマル出るなよ。」と祈りながらアプローチ。風が弱めだったので、ブレイクコードを指に巻き集中してコントロール。パッドにランディングすると同時に「やった」と思わずガッツポーズがでました。

大会主催者、関係者のみなさま、ありがとうございます。また、いつも楽しく遊んでいた競技仲間のおかげで続けてこられました、感謝いたします。

山口 香代

再び女子日本選手権者になることができて大変嬉しく思っています。しかし、恥ずかしながら今回の大会中パッドを踏むことができませんでした。安定しない風のせいで他の選手が大きな点を出してしまう中、辛うじて大きな失敗をしなかったことで女子優勝することができました。いかに大きな点を出さないことが大切かを実感しました。

今回も普段練習しているスカイ朝霧での大会でしたので、大会中に応援の声をたくさんかけてもらうことができて大きな力となりました。ありがとうございました。



スクラッチクラス総合入賞者。一段高く平野選手。



スクラッチクラス女子入賞者。山口選手が首位堅守。



ハンディキャップクラス入賞者。浅田選手が勝利。



チーム戦入賞の3チーム。

国から4名も参加してくれました。まだ国際大会に参加したことがない選手も良い刺激を受けたのではないのでしょうか？これを機に国際大会への参加意欲も湧き、アキュラシーが盛り上がってくれることを期待します。

2023シーズンも頑張っていきますので、また応援よろしく願いいたします。今度はパッドをバシッと踏んで連覇目指すぞー。

パラグライディングJ, J2, AJリーグ/ハンググライディングシリーズ 快挙！小梶溪太、PG&HG両リーグ覇者に

2022年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

2022年シーズンは、残念ながらコロナ禍は収束しませんでした。主催者や関係者の工夫と努力によって大会の開催数が増えました。各地で展開された熱戦の結果、トップランカーとなったのは……

PG ジャパンリーグ

[総合]

1位	小梶 溪太	神奈川	4169.4
2位	小林 大晃	三重	4127.1
3位	上山 太郎	大阪	4065.7
4位	花田 瞬	福岡	4060.4
5位	平木 啓子	静岡	4020.8
6位	廣川 靖晃	静岡	3998.6

[総合女子]

1位	平木 啓子	静岡	4020.8
2位	山下 敦子	兵庫	3984.8
3位	成山 奈緒	大阪	3909.7

[スポーツクラス]

1位	氏田 敏彦	神奈川	3404.9
2位	長島 信一	石川	3385.7
3位	中川 喜昭	茨城	3206.4

[日本代表選抜]

1位	廣川 靖晃	静岡	260.46
2位	成山 基義	大阪	260.15
3位	上山 太郎	大阪	246.90
4位	小林 大晃	三重	235.11
5位	岩崎 拓夫	京都	231.04
6位	中村 浩希	愛知	220.50



総合1位
小梶 溪太

2022年の年間リーグに採用された3本の競技成績は、いずれも自分自身のホームエリア足尾山における大会のタスクでした。

春のスカイグランプリ in 足尾では、福島県白河までの100kmタスクにてトップと4秒差で惜しくも3位。秋に開催された日本選手権では、地元の有利を活かして2タスクでトップゴール

を果たし、優勝することが出来ました。

いずれも集団から少し外れたコース取りやペースが結果的に上手いき、成績に繋がったフライトでした。普段からクロスカントリーやタスクフライトで飛び慣れたエリアだったので、自信を持って飛べたことが勝因だと感じました。

私はハンググライダーの競技にも参加していて、なんとこちらも年間シリーズで1位になることが出来ました。

ハンググライダーでフライトするメリットは、コース選択の意識が広がることだと思います。ハンググライダーはスピードレンジが広く、グライド出来る範囲も広いので、競技でも選手が前後左右の広範囲に分かれる場面が多くあり、視野を広く飛ぶことが求められます。

これからも技術向上を目指して、積極的に大会に参加したいです。



女子1位
平木 啓子

2022年は、色んなエリアでJ1・J2が開催され、そして多くが成立した素晴

らしい年でした。自分は、遠くは自身のパラグライダーの出身地であるニセコまで出かけ、本当に大会を楽しみました。

失敗続きで自分がかかりしたり、応援してくれている人たちを落胆させることも多々ありましたが、なんとか強敵たちを抑え、2022年の女子年間チャンピオンのタイトルを手にすることができ、とても嬉しいです。もう成長することは難しいかと思っていましたが、まだまだ伸びしろがあると感じられた、とても有意義な1年でした。

大会に参加する人たちが増えていて、本当に嬉しいです。みんなで切磋琢磨しながら、上を目指して頑張りましょう！

一年間、応援ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



スポーツクラス1位
氏田 敏彦

スポーツクラスで年間優勝した主な原因は運に恵まれていたからだと思います。

同じクラスで競ったトップパイロット



2022パラグライディング日本選手権 in ASHIOより。

トの長島さん、中川さんらに僅差で勝ち抜けた理由を分析してみました。

環境要因として、

1：近年スポーツクラスの実力者の多くがオープンクラスに移行したこと。

2：ほぼ全部参加できたので、上位に入る確率が上がったこと。

3：好きな足尾の大会で複数回飛べたこと。

戦略要因は、

1：グライダーを、下位のCクラスに変更し、下手な制御ハンディを少なくしたこと。

2：グライダー性能をカバーするために、大きなサイズのグライダーにしたこと。

3：早いテイクオフを心がけ、スタートまでに時間的余裕が持ったこと。

4：ゴールを優先するために、序盤、中盤、後半の3フェーズのルールを作り、概ね守れたこと。

他の要因としては、

1：年間ランキング計算がベスト3フライトで行われたことで成績にバラツキがある自分に有利だったこと。

2：6月に参加した2週間に及ぶアメリカのフラットランド大会の経験が、足尾の日本選手権で生かされたこと。

3：大会中は単独であることを努め、集中力を高めたこと（ワイガヤを避けエリアまでの移動や宿泊、食事を単独で）。

例年Jリーグ全体の実力が上がってきています。来年も同じように勝てるとは思いますが、セレクションが発生しても優先的に参加できることは嬉しい限りです。

PG ジャパン 2 リーグ

【総合】

1 位	石黒信一郎	愛 知	2731
2 位	前島 聡夫	東 京	2529
3 位	力石 一穂	群 馬	2446
4 位	関根 久男	埼 玉	2430
5 位	熊谷 勝秀	愛 知	2407
6 位	杉山 卓也	神奈川	2392

【女子】

1 位	鈴木 彩	神奈川	2186
2 位	菊田 久美	宮 城	2165
3 位	鈴木 淳子	静 岡	2163

【チーム】

1 位	ソラ&ドロシー	9
2 位	TEAM沢の霧	7
3 位	宮田組	6



総合 1 位
石黒 信一郎

J2の大会に出だして早いもので4年が経ちますが、やっと1位になれて素直に大変よろこんでいます。

私は長い間パラグライダーを休憩していて、今から7年程前に空が飛びたくて復活しました。機材も大会自体もデジタル化され、はじめはかなりてこずりましたが、昔に比べ安全で集中できる環境下で大会ができるようになっていて、この進化には驚いています。

今も昔も変わらないのは競技に参加する楽しさです。競技を通していろんなことを学ばせていただき、同じ志を持った人たちと大会が終わった後のフライト談議に花が咲き、また次回も頑張ろうと思うような感動をいただけることが、パラグライダーをより楽しく

思える時ではないかと思います。

コロナ禍で厳しい中、大会を開催していただいたスタッフの皆様に感謝したいと思います。本当にいろいろとありがとうございました。

2023年もチャレンジャーの気持ちで頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。



女子 1 位
鈴木 彩

まずは、コロナ禍においても大会を開催していただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

2022年は、4大会のうち2大会が成立せず残念でしたが、それでも4タスク成立し、女子1位でシーズンを終えることができたのはとても嬉しく思います。

1月にBクラス機から初めてCクラス機に乗り換え、なかなか乗りこなせずフライトを楽しめない時期が半年ほど続きましたが、やっとしっくりくるようになり、飛ぶことを楽しめるようになったのでほっとしています。

来年も安全第一で楽しくフライトすることが一番の目標ですが、J2にはJ1で活躍されている選手も多く参加され、一緒に飛べる貴重な機会なので、大会を通じて自分のフライトスキルも磨いていけたらと思います。

最近J2参加者が増えてセレクションになることもあり、たくさんの方が楽しめるように、2023年は多くの大会が開催されることを願っております。

● 2022年パラグライディングJ, J2, AJリーグを振り返って パラグライディング競技委員長 岡 芳樹 ●

【Jリーグ】

2022年は8大会が開催され、7大会が成立した。そのうちの1大会は、久々の北海道ニセコでの開催で、遠隔地にも関わらず多くの選手が参集した。選手の熱意が通じたのか、足尾の日本選手権を除いてすべての大会が1本成立であったのをしり目に、2日間で2タスクが成立する快挙となった。また今年のDQ（デイクオリティ）が0.6以上の成立タスク本数は9本と、まずまずの結果が残せた。これからも年1回程度の新しいエリアでの大会開催を模索

していきたい。

【J2リーグ】

4大会が開催され、前半の2大会はコンディションに恵まれ、共に2本成立であったが、後半の2大会が反対にコンディションにたたられ不成立となってしまった。不成立となった両大会とも、J2としては珍しくセレクションを実施するほど参加選手が多かったので大変残念な結果となってしまった。それでも年間を通して4タスクが成立したので、何とか意義のあるランキングが残せたのでほっとしている。

J2も少しづつ活性化しているので、2023シーズンは、大会の数を増やしてさらなる活性化を目指したい。

【アキュラシーJリーグ】

6大会が開催され5大会が成立した。初戦の朝霧第1戦が、成立ラウンドが1と朝霧らしからぬ結果となったが、他の大会は6ラウンドが成立、日本選手権も9ラウンドが成立し充実したシーズンとなった。参加選手数も徐々に増えてきているので、もう少し大会数を増やしてさらなる活性化（特に若い選手の参加）を図っていきたい。

PG アキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位	和田 浩二	静岡	185.5
2位	平野 竜二	兵庫	134.5
3位	河本 勇吉	大阪	131.0
4位	古田 岳史	埼玉	123.5
5位	川村 真	宮城	113.3
6位	岡 芳樹	東京	110.4

[スクラッチクラス女子]

1位	橋本みさ紀	大阪	93.1
2位	伊藤まり子	愛知	74.5
3位	山口 香代	東京	64.9

[ハンディキャップクラス総合]

1位	和田 浩二	静岡	162.0
2位	河本 勇吉	大阪	160.1
3位	古田 岳史	埼玉	123.5
4位	川村 真	宮城	119.4
5位	平野 竜二	兵庫	113.5
6位	浅田 寛之	兵庫	112.4

[ハンディキャップクラス女子]

1位	橋本みさ紀	大阪	76.7
2位	高橋 美佳	埼玉	75.9
3位	伊藤まり子	愛知	60.1

[チーム]

1位	びよびよ	41
2位	スカイ朝霧	30
3位	おむすび丸	19
4位	飛魔人くらぶ	10
4位	丹バラA	10
6位	ひなたぼっこ	6

[日本代表選抜]

1位	和田 浩二	静岡	215.45
2位	平野 竜二	兵庫	147.50
3位	古田 岳史	埼玉	142.70
4位	岡 芳樹	東京	141.95
5位	河本 勇吉	大阪	131.00
6位	川村 真	宮城	130.10



スクラッチクラス

総合 1 位

和田 浩二

2022年シーズンは、コロナ禍に少し慣れたせいか、大会数も例年並みの1年でした。

大きなミスから始まったシーズン初戦でしたが、中盤戦のグランボレ、南陽、高山はなんとか勝利を重ねることができ、最終戦を待たずにリーグ1位を獲得できました。

そしてリーグ1位が確定して迎えた最終戦、スカイ朝霧の日本選手権では事前に準備と調整をしてきたにも関わらず、体調管理を怠ってしまい残念でとても悔しい思いでシーズン終了を迎えることになりました。来年もアキュラシーを続けていたらもう少し真面目にスポーツとして取り組んで行こうと思います。



スクラッチクラス

女子 1 位

橋本 みさ紀

前年度はたった1戦しか成立せずでしたが、2022年度は計5戦も成立したことをとても喜ばしく思うとともに、各地で大会を開催いただいた運営の皆様にも心から感謝申し上げます。

個人的には2022年は初の海外選手権（アジア選手権）へ参戦出来たことが大きな機会になりました。その選手権がアキュラシー競技へのモチベーションに繋がり、仲間たちと一緒に練習する機会も増え、ますますアキュラシーが楽しくなった1年でした。

新たな選手たちがリーグ戦に加わったことも刺激になり、非常に面白いリーグ戦になったと感じています。

そのような1年、大会ごとに悲喜交々ありましたが、最終的にこうした結果が残せたことは素直に嬉しく思っています。

私自身はまだまだスコアが安定しないところから脱却し、よりターゲットの真ん中へ！より上のレベルへ！を目指していきたいです。

2023年度も多くの選手たちと共に切磋琢磨し、アキュラシー競技がさらに盛り上がっていくことを楽しみにしています。

HG シリーズ

[クラス 1 総合]

1位	小梶 溪太	神奈川	3807
2位	大門 浩二	茨城	3666
3位	砂間 隆司	愛知	3560
4位	田中 元気	大阪	3472
5位	大陽 智仁	茨城	3347
6位	鈴木 由路	茨城	3298

[クラス 1 女子]

1位	野尻 知里	茨城	1927
2位	佐野 容子	和歌山	1819
3位	櫻井さやか	栃木	1671



クラス 1

総合 1 位

小梶 溪太

今年は久しぶりに南陽でも大会が開催され、年間の競技成立本数が多かったため、2017年以来の成績4本計上のハングシリーズとなりました。

西富士、龍門とトリッキーなコンディションの中、自分のペースとコースが上手くハマり、タスクトップを4本揃えることが出来ました。普段、足尾山nasaエリアで月例競技会を行っていて、上手な仲間達と切磋琢磨して競技経験を積めたことが一番大きな勝

● 2022年ハンググライダーシリーズを振り返って

ハンググライダー競技委員長 牟田園 明 ●

2022年のハンググライダー競技は4大会で計12タスクを消化することができ、ようやくコロナ前の水準まで戻ってくることができた。

近年の傾向で特筆すべきは若手の台頭である。シリーズ登録選手75名のうち20代の選手が17人で全体の1/4近くを占めている。また、ランキング20位以内の内訳としては、20代：4名、30代：4名、40代：6名、50代：5名、

60代：1名…と各世代でバランスよく分散しており、その中でも特に20代、30代の選手の活躍が目立っている。

この勢いをさらに加速させるべく、ハング競技委員会では競技者の底辺拡大および競技レベルの底上げを目的とした「競技者育成プログラム（Fledge）」を2022年からスタートさせた。

プログラムでは競技者のレベルに応じて様々な取り組みを企画・運営して

いる（初級者：スポーツクラス大会、中級者：フライトセミナー、上級者：新規エリアでのポイント大会、など）。競技の面白さを知るキッカケとして、全国のハングフライヤーの皆さんに有効活用していただきたい。

活動の詳細については競技委員会のHPをご覧ください。

<https://jhfh.hangpara.or.jp/hgc/fledge/>

困だったと感じます。

私はパラグライダーの競技にも参加していて、なんとこちらも年間リーグで1位になることが出来ました。パラグライダーでフライトするメリットはソアリング感覚が向上することだと思います。パラグライダーはサーマルのシフトや山際のリッジ帯のより繊細な動きを感じられます。

これからも技術向上を目指して、積極的に大会に参加したいです。



クラス 1
女子 1 位
野尻 知里

ようやく、大会のある日常が戻ってきました。とはいえ、まともにポイントを取れたのは最終戦の龍門のみで、西富士も南陽も不甲斐ない成績ばかりで正直、今年は駄目かと思っていました。最近バラの練習ばかりしすぎて、ハングでのサーマルに対するファース



ハンググライディング日本選手権2022 in 朝霧より。

トコンタクトがズレてしまっていたようです。これまでなんとなくやっていたソアリングについて、グライダーの慣性と自分のコントロールとサーマルとのズレを認識して言語化して修正できたのが、龍門での成績につながったと思います。それでもゴールは少なすぎて…もっとゴールしたい！ 途中で

降りちゃうと距離を飛んでも悔しいし、遅くなくてもゴールできればそれだけで楽しい。100人ゴール上等、もっとみんなでゴールしたいなあ～！

関西でも関東でも、新しい仲間が成長しているのを感じます。初めての大会参戦、久しぶりの大会復帰、心からお待ちしています！

JHFからのお知らせ

■HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンググライディング技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンググライディング教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布を開始しました。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。

また、2021年3月、皆さんにお待ちいただいていた『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行しました。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。事務局にご注文の場合は、JHFウェブサイト「JHFのご案内〔書籍情報〕」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控

えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。



■チェック5タグの活用を

JHFでは「チェック5タグ」を頒布しています。これはハーネスなどに装着し、テイクオフ前にタグを読み上げて、準備は完全か、プレフライトチェックをしっかりと行ったかを確認していただくためのもの。全フライヤー会員に

お送りしましたが、追加をご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局からの送付もできます。メールかFAXでご連絡ください。1セット300円（送料込み）です。

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました（下のQRコードから）。

広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さまにも、楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に移居された方や、お名前が変わった方がいたら「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけると、たいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人
日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがあります。が、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート240号

発行日：2023年（令和5年）1月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト



www.toto-dream.com www.toto-growing.com
©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。